

2022年度三重大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）入学試験問題
試験科目 [外国人留学生特別入試試験科目・小論文]

問題 次の文章を読み、設問に答えなさい。

「気候変動は、世界が経験した中で、最大の『市場の失敗』による結果である」

英財務省や世界銀行の要職を歴任した経済学者のニコラス・スターンは2006年、気候変動についての報告書にこう記している。「市場の失敗」というのは、つまり自由市場が社会の豊かさを最大化しない（経済学でいう外部不経済）ということであり、今や経済学者が気候変動を語るときに必ず出てくる言葉となった。

では、一体、何が失敗なのか。例えば、温室効果ガス自体は、経済的に価値がある活動の副産物として排出される。そして、その排出が与える影響は、その経済活動の主体ではなく、将来のミレニアル世代やZ世代、または発展途上国の人々が被るわけであって、排出の責任者はコストを負担していないということになる。

つまり、温室効果ガスの悪影響は市場の「外部」にあるために、企業や消費者には通常、これを削減するための経済的なインセンティブが働かないということである。これが先述の「外部不経済（負の外部性）」の意味するところだ。その結果、市場は温室効果ガスを過剰に生産してしまう、というのが経済学における「失敗」の意味だ。

ここに政策介入によって新たなメカニズムを働かせようという試みの一つが、（中略）「カーボン・プライシング」である。これは、CO₂を排出する活動に価格を付けることで、脱炭素への取り組みを促進し、ひいてはイノベーションにつなげる狙いがある。これをできるだけ安価に経済全体に行き渡らせるためには、炭素税や排出量取引などを通じて、すべての企業や世帯が「同一の炭素価格」を支払う政策をとらなければならない。

さらに、この「市場の失敗」を異なる市場メカニズムで補う動きまで登場している。これは「カーボン・オフセット市場」と言われるもので、CO₂を排出する企業たちが、CO₂を吸収する森林業者や（中略）CO₂回収企業などから吸収・回収分をオフセット（相殺分）として買い取ることで、買った分を自社の排出分から相殺することができる。

すでに2020年には1.7億トン分のオフセットクレジットが発行されているほか、英国では「自主的なカーボン市場の拡大のためのタスクフォース（TSVCM）」が発足し、石油会社や金融機関、コンサル会社などが環境整備に乗り出している。TSVCMを創設したマーク・カーニーによると、その市場規模は2018年の3億ドル（約330億円）規模から10年後には1000億ドル（約11兆円）規模になるとみられている。

なぜそこまで拡大するのかといえば、（中略）今世界中の国から企業までが2050年のカーボンニュートラルを宣言している一方で、実は、これらの企業の多くはこの「オフセット市場」を当てにしていることが背景にある。例えば、石油企業などは実際にCO₂排出量をゼロにするのが難しいとなれば、途上国の植林プロジェクトなどからオフセットのクレジットを購入して相殺することになる。

ただ、この市場はまだ「何でもあり」といっていい状態だ。まず、CO₂をガンガン吐き出しているも、オフセットを購入していれば、カーボンニュートラルを喧伝してもいいのかという問題がある。まさにクリーンをお金で買う、文字通りの「免罪符」になりかねない。さらには、オフセットを販売している事業者が、本当にCO₂を回収しているのか怪しい事案がすでに出てきており、排出量は削減されるどころか、実際は増加しているという事態までが起きているのだ。

著作権の関係上、開示しない。

1年、209-212頁を一部改変)

問 文中の「カーボン・オフセット市場」について、その問題点に触れながら、400字程度で説明しなさい。